

**平成23年度 食と地域の交流促進対策交付金
事業実施主体 評価一覧**

①【子ども交流推進(子ども農山漁村交流プロジェクト)】 2件

No	各農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階			評価	評価コメント
					H23	H24	H25		
1	沖縄総合事務局	沖縄県	金武町	金武町ふれあい交流協議会	↔	■		A	計画の項目の中で一部未実施な内容があるものの、受入農家の資質向上を図るため各種講習会の開催や農家向け危機管理マニュアルの作成、誘致のためのDVDの作成・配布などの取組が実施され、また農林漁家に民泊事業の情報発信の取組を実施したことにより民泊提供者を確保でき目標も達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
2	沖縄総合事務局	沖縄県	八重瀬町他	沖縄南部広域農山漁村協議会	↔		■	A	農林漁家を対象とした体験指導者講習会や救急蘇生法講習会などを開催し人材の育成を図り、また農林漁業体験プログラムの検証・開発やガイドブックの作成・配布など計画どおり全ての取組を実施するとともに、地域の協働・連携体制を構築するため小学校1校の宿泊体験活動を受入れ、目標もほぼ達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。

(注意)「事業実施段階」の凡例： 交付金対象年度



目標年度 ■

②【観光と連携した都市農村交流推進(グリーン・ツーリズム)】 2件

No	各農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階			評価	評価コメント
					H23	H24	H25		
3	沖縄総合事務局	沖縄県	南城市	「島まるごと有機の島」をつくる有機農業体験交流推進協議会	↔		■	B	計画の中で未実施な項目があるものの、島の資源発掘調査や体験プログラムの開発を目的としたワークショップやモニターツアーなどの取組が実施され、また農村体験交流プログラムを試行し受入体制が構築されつつあり、目標も達成されていることから、成果をある程度上げていると認められる。 今後は、魅力ある有機農業体験プログラムなどを確立され、ウェブサイトを制作し島の魅力や体験プログラムの情報発信を行うとともに、引き続き都市部住民等の受入体制の構築を図られたい。
4	沖縄総合事務局	沖縄県	大宜味村	おおぎみツーリズム地域協議会	↔		■	A	農家民泊受入講習会や人材育成講習会の開催、広報活動など、交流促進計画に基づく取組がほぼ実施され、民泊受入準備がおおむね出来たとともに、被災地(福島県西会津町)との観光・物産交流も定着し、特に商品開発においては、地元特産品を使用した弁当が人気を博すなど、成果を十分上げていると認められる。

(注意)「事業実施段階」の凡例： 交付金対象年度



目標年度 ■

③【定住促進】 1件

No	各農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階			評価	評価コメント
					H23	H24	H25		
5	沖縄総合事務局	沖縄県	宮古島市	来間島地域ふるさと活性化推進協議会	←→		■	A	来間島の空き屋17世帯を対象に空き屋台帳の作成、所有者への空き屋活用の意向調査、島に自生している薬草・野草の分布調査など計画どおり全ての取組を実施するとともに、当初予定していなかった定住者を1世帯(2名)確保することができ目標も達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。

(注意)「事業実施段階」の凡例： 交付金対象年度



目標年度■

④【都市人材の活用推進(田舎で働き隊)】 1件

No	各農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階			評価	評価コメント
					H23	H24	H25		
6	沖縄総合事務局	沖縄県	宮古島市	城辺元気づくり推進協議会	↔	■		B	都市部の人材募集・選定を行い研修生を確保し、「心のケア」をテーマとした講習会の実施や都市部人材のスキルを活用した長期滞在プログラムを構築するなど計画どおり全ての取組を実施するとともに、また島の食材を使用した健康プログラムを提供することができ目標もおおむね達成されていることから、成果をある程度上げていると認められる。 今後は、ホームページなどを活用し「心のケア」をテーマとしたプログラムを積極的に情報発信することで長期滞在者数の目標を達成されたい。

(注意)「事業実施段階」の凡例： 交付金対象年度



目標年度■

⑤【農村環境の活用推進】 1件

No	各農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階			評価	評価コメント
					H23	H24	H25		
7	沖縄総合事務局	沖縄県	大宜味村	大宜味つばきの森地域育成協議会	←→		■	A	椿の森の管理・保全などの実践活動や住民参加による苗づくり、また人材育成も実施されるなど、交流促進計画に基づく取組がほぼ実施され、村づくりを担う若手グループとの協働や、椿の里づくりに向けた地域が一体となった体制整備がなされるなど、成果が十分上がっていると認められる。

(注意)「事業実施段階」の凡例： 交付金対象年度



目標年度■

⑥【集落型産地振興】 3件

No	各農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階			評価	評価コメント
					H23	H24	H25		
8	沖縄総合事務局	沖縄県	伊平屋村	いへや“薬草王国・野の菜女王国”物語	←→		■	B	種苗生産、栽培、これらを活かした料理・薬膳の開発、サトウキビ製品の試作、さらに伊平屋島をアピールする交流ツアーの実施、商品開発(試作品)は目標値以上の成果を上げ、地域住民の収益の向上をもたらしている。今後は商品完成に取り組み、商品登録を行うなど、他商品との差別化・ブランド化を図り、次年度目標の達成を望みたい。
9	沖縄総合事務局	沖縄県	本部町	田空地域協議会	←→		■	B	「伝統・郷土料理の発掘・普及」「イベント開催」の取組により地域住民の交流が実現され都市との交流の取組の基盤ができており、一定の成果を上げていると認められる。 今後は、伝統郷土料理のレシピ等開発とイベントの回数を増やし、広報活動に力を入れ都市との交流人口について、次年度目標を達成されたい。
10	沖縄総合事務局	沖縄県	うるま市	あがいびすく協議会	←→		■	B	「イケ島のツーリズム事業」と「島の宝のこし事業」の取組により都市と農村の交流が実現され一定の成果を上げていると認められる。 今後は「島の商品作り事業」における加工所の確保を行い、商品の増産を図り、次年度目標を達成をされたい。

(注意)「事業実施段階」の凡例： 交付金対象年度

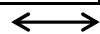


目標年度 ■

⑧【医療・介護の場としての活用推進】 1件

No	各農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階			評価	評価コメント
					H23	H24	H25		
11	沖縄総合事務局	沖縄県	糸満市	沖縄ソーシャルファーム協議会	←→		■	B	計画の中で未実施な項目があり、また地域内の連携不足により取組が遅延し年度末に集中したものの、医療・福祉事業者と意見交換を実施する中でソーシャルファーム体験交流プログラムを開発し、テスト試行を行うなど障がい者を受け入れる体制が構築されつつあり目標も達成されていることから、成果をある程度上げていると認められる。 今後は、協議会構成員との連携を密にされ早期に取組を開始するとともに、ソーシャルファーム体験交流プログラムを確立させ、福祉事業者などへ積極的に情報発信を行い受入体制の構築を図られたい。

(注意)「事業実施段階」の凡例： 交付金対象年度



目標年度 ■

【平成23年度食と地域の交流促進対策交付金の評価概要】

1. 食と地域の交流促進集落活性化対策

平成23年度事業の評価では、平成23年度に採択された11団体を評価した。

交流促進計画に基づく取組がほぼ実施され、成果も十分上がっていると認められる評価「A」が5団体、全体の45%、取組が一定程度実施され、成果もある程度上がっていると認められる評価「B」が6団体、全体の55%であった。

全て事業初年度の段階の団体であるが、本交付金により各団体の地域の課題解決、交流推進等の取組基盤が強化され、一定の成果が出ていると認められる。

また、交流促進計画に基づく取組がほとんど実施されず、成果も上がっていない団体はなかった。

【平成23年度食と地域の交流促進対策交付金評価委員会の議事概要】

評価委員会

1. 日 時:平成24年9月28日(金)13時30分～16時30分

2. 場 所:沖縄総合事務局 会議室

3. 出席者:

・評価委員会委員

小宮 康明(委員長) 琉球大学農学部准教授

幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役社長

山田 英樹 株式会社リクルート沖縄じゃらん代表取締役社長

前田 幹男 沖縄県農林水産部村づくり計画課長

・評価委員会事務局

沖縄総合事務局担当者 6名

4. 議事概要

1) 食と地域の交流促進対策交付金の評価について

・食と地域の交流促進集落活性化対策の実施団体の評価内容案について、委員の意見への回答及び評価内容案への反映結果を事務局から説明し、委員からの意見聴取を行った。

2) 食と地域の交流促進対策交付金の評価結果案のとりまとめ

・上記1)の結果を踏まえ、食と地域の交流促進集落活性化対策の各実施団体の評価結果案について、実施要領別紙様式第14号及び公表用様式にとりまとめた。

5. 評価委員会委員の主な意見

No.1 金武町ふれあい交流協議会

- ・誘客を促進するため、県外の修学旅行生や体験希望者の募集を検討する必要がある。
- ・体験者については、農家が必要な時にワーキングホリデー的な募集も考えられる。
- ・さらなる安全対策に努めるとともに、旅館業法に基づく簡易宿所の取得を促進され成果を上げてほしい。

No.2 沖縄南部広域農山漁村協議会

- ・今後は県外向けの観光商材として、旅行代理店へのメニューの追加や旅行情報誌などを活用され、しっかりとしたプロモーションが必要である。
- ・さらなる安全対策に努めるとともに、旅館業法に基づく簡易宿所の取得を促進され成果を上げてほしい。

No.3 「島まるごと有機の島」をつくる有機農業体験交流推進協議会

- ・久高島の特産品(イラブー)を活用した料理体験プログラムなどを検討され、健康をキーワードに島を積極的にPRしてはどうか。
- ・島民との連携が実現しつつあるというのは素晴らしい。今後、島のコンセプトを明確にされ、交流人口獲得のための着地型プログラムを磨いて頂きたい。
- ・受入農家の有機栽培技術の向上や栽培面積の拡大に努められたい。
- ・「島まるごと有機の島」のコンセプトに合うように、一部の農家の取り組みから島全体の取り組みに拡大されたい。

No.4 おおぎみツーリズム地域協議会

- ・長寿モデル地域としての特性を活かし、食文化もさらに全国に向け発信されたい。食、生活習慣、文化、すべてが長寿に繋がる大宜味村の利点を十分に活用することにより、事業の発展性がさらに見込まれる。
- ・地元食材を活用した「ぶながや弁当」は非常にすばらしい成果。
- ・今後は村のコンセプトを明確に打ち出し、継続的な商品作り、プロモーションを行うことでさらなる成果が期待できる。

No.5 来間島地域ふるさと活性化推進協議会

- ・事業の取組みに勢いが感じられ、島の活性化に貢献すると思われる。
- ・空家を島ご飯やカフェなど店舗に活用し、島ならではの料理でもてなすことで、交流人口や定住人口が増えていくと思われる。
- ・宮古馬などの地域資源をさらに活用し集客のための方策を検討されたい。
- ・空き屋台帳の作成から次の段階へのステップアップの取組を検討されたい。

No.6 城辺元気づくり推進協議会

- ・エリアへのリピート要因としては「人」が非常に有効に働くため、地元の方との交流を促進してほしい。また、「心のケア」での長期滞在を行うには、プロモーションの方法(どう商品化するのか。どこで販売するのか。誰をターゲットにするのか。どうやってターゲットに伝えるのか。)を検討してほしい。
- ・受け入れ側のリスク管理について、専門家による指導の下、十分に配慮されたい。

No.7 大宜味つばきの森地域育成協議会

- ・地元に残るコンテンツを磨くことは素晴らしいと思う。
- ・将来、椿を原材料とした商品開発にも力を入れ、全国展開できるビジネスになることを期待したい。
- ・また、椿祭りをさらに盛り上げるために、桜祭りとも連動させ、「花」をテーマに誘客を図ると効果的になると思う。特にシニア層に「花」は効果があると思える。
- ・平成25年2月の全国椿サミット沖縄大会開催によるPRや交流に期待したい。

No.8 いへや“^{やくそうおおく}薬草王国・^{な じょうこく}野の菜女王国”物語

- ・薬草の他、伊平屋はおいしい「島米」の特産地でもあり、島米の活用を工夫すれば、さらなる商品開発が期待される。
- ・ムーンライトマラソンの次のコンテンツとして、非常に興味深い。
- ・島にある野草を使った商品化を行い、そこに物語を作ったり、しっかりとした効用が期待できると、非常に良いコンテンツになると思う。例えば、宮古島で実施している「せんだんぐさ」を化粧品等に行っている事例が参考になると思う。

No.9 田空地域協議会

- ・郷土料理のレシピのうち、地域の売りとなるようなものを絞り、PRし、目標値の交流人口の達成または、集客の増加に努めてもらいたい。
- ・田畑のオーナー制度は面白いと思うが、田畑オーナー友の会の運営はさらに工夫が必要だと思われる。この土地のオーナーになるメリット(そこにしかないというメリット)を考える必要がある。例えば、収穫祭の実施や、ここでしか取れないものの栽培、育てるのは現地でいう収穫物のみのオーナー制度等が考えられる。
- ・オーナーが1年で変わっているということだが、オーナーになった理由、継続しなかった理由をしっかりとらえれば、次の展開が考えられると思う。

No.10 あがいびすく協議会

- ・加工所の確保を確実にし、目標の達成をされたい。
- ・島の美しい自然景観は大きな魅力であり、古民家宿泊体験参加者は今後も更に増加が見込まれる事業だと思われる。
- ・これら古民家を宿泊施設にしたり、カフェを開いたり、島でしか取れないものを加工販売したり、居酒屋にしたり等、観光客向けの商品開発を古民家を軸に行うこともできると思う。

No.11 沖縄ソーシャルファーム協議会

- ・受入農家の所得向上のための取組も、今後、具体的に検討してほしい。
- ・障がい者の受け入れを行うという考えは素晴らしいため、このマッチングは是非続けて頂きたい。
- ・受入体制が整備された後は、ターゲットに対して、如何に情報を提供するかが重要なポイントになるため、プロモーションの方法をしっかりと検討してほしい。
- ・介護施設の高齢者を対象にした体験プログラムの開発や受け入れも検討してほしい。

担当課：沖縄総合事務局農林水産部経営課、土地改良課